

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（中学校用）

都道府県名

高知県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	高知市立愛宕中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	6	3	17	40
生徒数	135	149	208	6	498	

研究の概要

1. 研究主題

「個性を生かす生き生きとした学校づくり」  
 ふるさと「再発見」・「体験」・そして社会貢献を  
 ～基礎・基本の定着、人間関係能力の育成を基盤として～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

学力向上のための重点的取り組み  
**【数学・英語 習熟の程度に応じた少人数学習】**

- ・ 1年 数学  
 生徒の理解の状況に差が出やすい教科、学年であるため。
- 1年 英語  
 初歩の段階でのつまづきを解消するため。
- ・ 2年 数学  
 生徒の理解の状況に差が出やすい教科、学年であるため。
- 2年 英語  
 1年時の英語科の取り組みが生徒、保護者から好評であり、継続を望む声が高まったため。
- ・ 3年 数学  
 高校進学等に向けて基礎基本のさらなる定着を図るため。
- 3年 英語  
 高校進学等に向けて基礎基本のさらなる定着と初歩の段階でのつまづきを解消するため。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	テーマ 子ども達に夢と希望そして自信を 研究の見通し（仮説） 学力向上の対策を学校が積極的に講ずることにより、保護者からの信頼を得る。 基礎・基本の定着を目指すことにより、生徒指導上の諸問題を解決する糸口とする。 研究の内容・方法 基礎・基本の定着 - 数学と英語の習熟度別学習の導入
--------	--

平成 15 年度	<p>(1) 指導方法・形態の工夫・改善をめざして</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全学年で数学・英語の少人数学習（習熟の程度に応じた）の実施</li> <li>・ メリハリのある指導法の研究（「教える」「習熟」「調べる」「思考」）</li> <li>・ 授業評価の有効な活用（授業改善）</li> </ul> <p>(2) 学びの場としての学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期テスト前の「サポートタイム」の実施（学習相互支援の場の設定）</li> <li>・ 学級担任による「学習スキルカウンセリング」の実施</li> <li>・ 定期的な補習の実施</li> </ul> <p>(3) 学習の深化・知の統合化をめざして</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ パソコンソフトを活用した基礎・基本の習得</li> <li>・ 夏休みの補習「アタック・イン・サマー」の実施</li> </ul> <p>(4) 自学自習の態度の育成をめざして</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自学自習のキャンペーン（学校通信・学年通信など）</li> <li>・ 家庭学習の手引書の作成・活用による家庭学習のあり方</li> <li>・ 課題学習プリントによる基礎・基本の繰り返し指導</li> </ul> <p>(5) 目的意識をもった進路指導をめざして</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画的・連続性のある進路指導</li> <li>・ 「進路指導室」の有効な活用</li> </ul>
----------------	---

平成 16 年度	<p>テーマ</p> <p>「個性を生かす生き生きとした学校づくり」 ふるさと「再発見」・「体験」・そして社会貢献を ～基礎・基本の定着、人間関係能力の育成を基盤として～</p> <p>研究の見通し</p> <p>学力向上の対策を学校が積極的に講ずることにより、保護者からの信頼を得る。 基礎・基本の定着を目指すことにより、生徒指導上の諸問題を解決する糸口とする。 家庭学習の定着と時間の延長 朝読書による基礎学力を支える国語力の向上</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>基礎・基本の定着 - 数学と英語の習熟度別学習の検証と実施 課題学習プリントによる基礎・基本の定着</p>
----------------	--

(3) 研究推進体制

<p>研修部会</p>   <p>構造図は別紙資料 1</p>	<p>教科部会（各教科別）</p> <p>学年部会（総合学習）（補充学習）</p> <p>習熟度部会（数学・英語）</p>
--	---

## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1. 研究成果

#### (1) CRT分析結果から授業改善へ

1学期にCRT分析を行い、教科ごとに観点別学習状況を把握した。

この分析を校内の研究推進部会において検討し、2学期以降、次のように各教科の授業を改善することができた。

(国語)・ 授業において書く場面を多く設定することで、書くことへの抵抗感を少なくすることができた。

・ 校内で漢字検定を実施することにより、漢字の学習に対する意欲を高めることができた。

(数学)・ 3年生で習熟度別学習コースを設定し、基本コースでは計算問題、通常コースでは数学的な見方・考え方を中心とした問題に取り組むというように個に応じた指導を行うことができた。

(英語)・ 2年生において1学期に引き続き単語テストを実施し、語彙を豊富にして英語による表現力を高めることができた。

(理科)・ 授業で行う実験を多くすることにより、生徒の授業に対する意欲を高めるとともに、実験結果から結論を導く過程で思考力を高めることができた。

#### (2) 学校評価調査の教職員と生徒の結果比較から教職員の意識と取り組みの変革へ

教職員と生徒を対象とした学校評価調査を7月と1月の2回行い比較した。その結果、多くの項目において、教員がより積極的に学校運営や教科指導、生徒指導に取り組もうとする意識を持つことができるようになった。

今後も毎年、評価調査を行い、年度ごとの結果の比較から、教職員の意識や取り組みの改善の進捗状況や課題を把握していくようにしたい。

### 2. 今後の課題

課題としては、次のような点があげられる。

- ・ 選択授業におけるより効果的、計画的な実施方法のあり方
- ・ 少人数・習熟度別学習のより効果的な運用
- ・ 授業時間の適切な確保
- ・ CRTの分析の充実
- ・ 家庭学習の定着と学習時間の延長

#### 学力把握のための学校としての取組

- ・ CRTの実施・・・年1回
- ・ 実力テストの実施(3年)・・・年5回
- ・ 確認テストの実施(1年・2年)・・・年3回
- ・ 選択授業での補充学習

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・校内研修  
「確かな学力を育てるデジタルポートフォリオと評価」  
講師 同志社女子大学教授 余田義彦 先生
- ・校内研修  
「絶対評価と通知表」
- ・地区懇談会での説明
- ・ホームページ作成による啓発・宣伝

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- |                      |              |            |    |       |
|----------------------|--------------|------------|----|-------|
| 【新規校・継続校】            | 15年度からの新規校   | 14年度からの継続校 |    |       |
| 【学校規模】               | 3学級以下        | 4～6学級      |    |       |
|                      | 7～9学級        | 10～12学級    |    |       |
|                      | 13～15学級      | 16学級以上     |    |       |
| 【指導体制】               | 少人数指導<br>その他 | T・Tによる指導   |    |       |
| 【研究教科】               | 国語           | 社会         | 数学 | 理科    |
|                      | 外国語          | 音楽         | 美術 | 技術・家庭 |
|                      | 保健体育         | その他        |    |       |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 |              | 有          | 無  |       |